



若者と地元企業を繋ぎ 地域社会の課題解決に取り組む

田中 勲さん 特定非営利活動法人G-net 副代表理事
Isao Tanaka

大手企業や公務員への道もあったが、「社会に貢献する人生」を選んだ。

ボリビアではサッカー教室を運営し、地域社会の一員として働くことの意味を教えられた。

今、地域社会の課題解決に邁進し、岐阜県の枠を超えた活動にも目を向けている。

人生の目的は 社会に貢献すること

「どうしても社会貢献に人生を捧げたいという、強い思いがありました。それには国際協力が一番だと考えたのです」

田中さんは、大学で社会基盤工学を学び、エンジニアとして工学系の会社に就職した。だが、わずか2ヶ月で退職、青年海外協力隊に応募した。

「同時に市役所も受けて合格したのですが、協力隊を選びました。両親には反対されて、もっと安定した道をと勧められたのですが……」

2009年、南米のボリビアに派遣された。赴任地のサンタクルス県サンファンは、日系人移住地を中心に発展したとこ

ろ。農業を営む日系人社会と、その下で働くボリビア人社会が混在し、両者の共存と交流が地域の課題となっていた。

市役所のスポーツ・文化・観光課に配属された田中さんは、サッカーの指導を活動の中心とし、サッカー教室の運営に力を入れた。

得意なサッカーを通じて ボリビアの人たちと交流

「5歳から20歳まで、大好きなサッカーが生活の中心でした。大学を卒業したらサッカーを通じて社会に貢献したい、という目標も抱いていました」

サッカー教室に集まるのは、主にボリビア人社会の人たち。田中さんの指導

を受け、成人の部のチームは県のリーグ戦に参加するまでになった。子どもたちのチームはクリスマスカップで優勝し、市長杯を受賞するほど成長した。

ボリビア人と共に活動し、日系社会とも強い繋がりを築く。そうした中で、社会の一員として働くことを自然に学んでいった。仕事をスムーズに進めるために必要なことも、身をもって学んだ。





古いビルの1室をリノベーションしたオフィス。地元の工務店と共に、壁も床も棚も手作りした。



決まった机はなく、その場に応じて打ち合わせやミーティング、パーティの会場にもなる。



インターンシップを広めるため、さまざまなところで出向いて講演している。

「同僚に任せきりにしていたら、サッカーの試合当日にバスのチケットがない、なんてこともあって……。何でも他人事にせず、自分のこととして取り組む。自分で何とかする。そういった、仕事を推進する力が身につきました」

ボリビアで体験を積み重ねるうちに、日本に帰ったら地域社会のために働きたいという意欲が育っていった。

身につけた推進力で 地域の課題解決に取り組む

協力隊に参加する前、田中さんはチャリティ・イベントサークルを立ち上げていた。帰国後はそのNPO法人化を考え、大学の恩師に相談したところ、同じような考え方を実践している、G-netというNPOを紹介された。

地域の当事者としての意欲ある若者と、それを支える地元の中小企業を繋ぐ。G-netは、人材流出をはじめ、今後ますます増えると予想される地域の課題を解決しようと立ち上げられた団体だ。

田中さんはG-netの報告会に出かけ、5ヶ月間の仕事があると知ってさっそく応

募、職員として採用された。協力隊時代に培った、仕事を推進する能力を全開にして励むうち、気がつけば5年が経ち、副代表理事に就任していた。

G-netが取り組んでいる代表的な事業のひとつが、長期実践型の「ホンキ系インターンシップ」のコーディネートだ。インターン生には米国の大学生や東海圏以外の学生も多い。大学に対してもインターンシップの導入を働きかけており、現在では関東や中部、四国などの複数の大学が「ホンキ系インターンシップ」を正式な単位として認定している。

今までに岐阜県を中心に、ホンキ系含む実践型のインターンシップに800名弱の若者が参加。そこから20人弱が起業・独立し、G-netの取組みを通じて100名以上が地域の中小企業に就職するなど、着実な成果を上げている。

「例を挙げると、岐阜の伝統的産業である柘のメーカーでは、元インターン生がマーケティングマネージャーとして、新たな柘の商品化や販路開拓を行いました。また、英語ができる学生は、海外リサーチや英文メールの売り込みをして、ヤフートピックスで商品が紹介され、ス

田中 勲さん プロフィール

大阪府出身。岐阜大学で社会基盤工学を学ぶ。2008年、チャリティイベントサークルSH2ITSを設立。2009年、青年海外協力隊に参加してボリビアへ。2012年からNPO法人G-net職員に、2017年より副代表理事就任。JICA ボランティア岐阜県OV会会長。

タイリッシュな柘がニューヨークで販売されるようになったんです」

2018年からは、全国に点在している企業を繋げる「ふるさと兼業」という事業を開始した。「企業の社員が、本業の傍らで週1回はオンラインビデオで、月1回は集まって会議を行い、新しい仕事を生み出そうとする試み。自分の力を他の地域でも活かして、個からチームへ、点からコミュニティへと広げていく取り組みです」

サッカーから地域の課題解決へ。田中さんの社会貢献に対する熱意は、ずっと変わらない。かつては反対していた両親も、今ではよき理解者だ。「岐阜のG-net」を、「全国的なJ-net」に繋げていきたい。地域を盛り上げることで、社会全体が活性化する。理想は大きく、でも足元から一歩ずつ着実に、田中さんは未来を見据えながら歩み続ける。

田中さんへの エール!

特定非営利活動法人G-net
就職・採用支援事業部部長
木村 愛さん



田中さんの理想を実現するため、私もフォローします

田中さんは中学1年生の時の同級生。その頃から努力家で、大切にしているものが他の同級生とはどこか違っていました。年齢や性別にとらわれず、自分が本当にやりたいと思った仕事をしたい、と私もG-netで働くことを決めました。大手企業での営業職の経験を活かし、現在は田中さんから事業を引き継いでいます。これからも田中さんが描く理想に向かって突き進んでほしい。同志として、活動をフォローしていきたいと思っています。